

## 図書 紹介

### ワクチンと予防接種の全て

#### 見直されるその威力

著者：大谷 明・三瀬勝利

発行：金原出版(株)／〒113-8687 東京都文京区湯島 2-31-14／TEL03-3811-7162／

B5判／211頁／価格4500円(税別)／2009年7月7日発行

現在、新型インフルエンザが蔓延しています。この秋には流行のピークが到来することが予想されています。ワクチンは従来より感染症の予防に貢献して来ました。現在、流行している新型インフルエンザ(ブタ由来インフルエンザ A/H1N1)に対するワクチンについても、海外からの輸入を含めて、安定的な供給が急がれています。現在までにワクチンに関する書籍は多く存在しますが、それらの大半は、医療従事者向けの実用書か、あるいは、子供に予防接種を受けさせる保護者向けの説明書であり、ワクチンに関する全体的な解説書がなかったことも事実です。

本書は、国立感染症研究所名誉所員であられる大谷 明先生の最終著書であり、かつ、(前)国立医薬品食品衛生研究所副所長(現在、(独)医薬品医療機器総合機構の顧問)であられる三瀬勝利先生が、今は亡き大谷 明先生に捧げる、ワクチンに関する集大成の書籍であります。

内容を拝見した時、今まで知らなかったワクチンのことが全て、この本の中に集約されていることを理解した次第です。また、「何故に日本はワクチン後発国に止まっているか」という項目の中で、著者は日本におけるワクチンが先進国並みでない理由として、医薬品審査に携わる審査官の少なさと我が国に往々にして見られる清癖主義にあると思われると述べられておられます。絶対に安全なワクチンはないのも事実ですが、ワクチンの副作用をメディアが過大に取り上げたことも、ワクチンに対する不信感につながり、審査の進行に対して何らかのブレーキをかけているようにも思われると述べられておられます。

なお、皆様がワクチンに対していだかれている疑問点並びに心配点等については、予防接種に関する Q&A で的確に解説されているのも特徴と思われれます。

このような日本におけるワクチンのおかれている立場を理解したうえで、著者である三瀬先生は、後記の中で「大谷 明先生との長いおつき合いの中で、ワクチンへの強い思いと多数の人々に分かりやすいワクチンの解説書の必要性」を述べておられます。

また、著者らは、2007年度における麻疹ウイルスの蔓延については、我が国においては乳幼児に麻疹ワクチンの定期接種をして来なかったことが主要因であることを述べられて

おられます。現に、アメリカでは現在麻疹はほぼ完全に制圧されているのも事実です。

現在、新型インフルエンザが大きな社会問題となり、連日マスコミ関係等で取り上げられています。冒頭でも述べましたが、流行のピークが10月であると予想されています。著者らが述べておられるように、本書はワクチン後進国である日本に警鐘を鳴らす、最新・最高の読める啓発書であることを強調したい次第です。

なお、本書の内容構成(主要項目)について以下に示します。

#### 第1部 ワクチンと予防接種のあらましーワクチン概論ー

##### 第1章 ワクチンの歴史

##### 第2章 ワクチンの光と影

##### 第3章 ワクチンという名の医薬品

#### 第2部 いろいろなワクチンーワクチン各論ー

##### 第4章 我が国で使われているワクチン

##### 第5章 海外渡航時に使うワクチン(トラベラーズワクチン)

##### 第6章 近く導入されるかも知れないワクチン(不活化ワクチン、子宮頸癌予防用)

##### 第7章 新興感染症用ワクチンとバイオテロ用ワクチン

##### 第8章 将来のワクチン

##### 第9章 抗毒素抗体と免疫グロブリン製剤

#### 第3部 予防接種時の注意とワクチン関連の法令

##### 第10章 予防接種時の注意事項

##### 第11章 予防接種関連の法規制

#### 第4部 予防接種に関するQ&A

一人でも多くの方々が本書を熟読され、ワクチンに対する正しい知識を持たれることを期待し、本書の紹介とします。

(近畿大学農学部 坂上吉一)